

(国語)

**「主体的に学び、表現できる児童の育成」  
— 叙述を基に読み取り、表現する力を育てる —**

大阪 市立喜連小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では「人間性豊かな子どもの育成」を学校目標に掲げ、めざす子ども像を「自ら学ぼうとする子」「思いやりのある子」「元気でくじけない子」とし、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てるため、日々の教育活動を進めている。令和 2 年度より2年間、算数科を研究教科として設定し、研究を進めたが、児童の実態として「読む」「書く」に課題があることが分かった。そこで令和4年度より、国語科を研究教科として取り上げ、「主体的に学び、表現できる児童の育成」を研究主題とし、研究の柱を、叙述を基に読み取る力の育成として研究を進めた。しかし、叙述を基に読み取る力だけでなく、読み取ったことを基に文章に表現する力も育成する必要がある。それらを受けて、本年度は研究主題を「主体的に学び、表現できる児童の育成～叙述を基に読み取り、表現する力の育成」と設定した。

## 2. 研究の趣旨

「書く」ことに関しては、国語科にとどまらず、文章問題の題意を捉えられず誤答したり、考えの説明の仕方に自信がないため白紙のまま提出したりする児童の実態がある。そこで、国語科の学習を通して叙述を基に読み取る力を継続して育成するとともに、読み取ったことを基に文章に表現する力の育成も図っていく。様々な言語活動の中において、「読む」と「書く」に焦点をあて、年間を通して計画的に取り組むことで、「主体的に学び、表現できる児童」へとつなげていきたい。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点① 叙述を基に読み取る

叙述を基に正しく読み取る力は、自分の考えなどを表現するために必要な力である。「なんとなく」感覚的に読むのではなく、根拠を明確にして読み取ることが重要である。そこで、読み取る際には接続語や情景描写などの文章における重要な語や文に注目させる。そのための手立てとして、「掲示物の工夫」「ワークシートの工夫」「動作化」を行う。掲示物やワークシートの構成や内容を工夫することで、児童がより叙述に注目できるようにする。また物語的文章においては叙述に基づいて動作化を行うことで、より読みを深めることにつなげていく。

### 視点② 読み取ったことを基に文章を書く

文章に表現するためには、適切な表現方法で、適切な語句を選択し、記述していくことが必要である。また、相手意識も必要となる。これらの力は様々な場面で継続して活用していくことで少しずつ身についていくものである。そこで、本年度は授業展開の中で「書く」場面をできるだけ多く取り入れる。まず振り返りや感想で自分の思いや考えを素直に表現することから始め、書くことへの抵抗感を減らす。そこから段階的に児童の実態に合わせて自分の考えや意見を書けるよう

にしていく。また、授業の第三次に「書く」ことを入れ、書くことを目標にして、自分ならどのように書くかを意識しながら、主体的に本文を読み進められるようにする。「読む」段階から「書く」ことを意識することにより、読み手を意識した書き表し方を読みながら習得できるようにしていく。

#### 視点③ 基礎基本の学力向上に向けての取り組みを行う

- 学校全体として、朝の短期学習の時間に視写に取り組む。
- 意味調べの仕方を工夫する。(逆引き・ファイリングなど)
- 短文作りに取り組む。
- 関連図書の活用を図る。(区図書館の活用)

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 説明的文章において、筆者の考えの中心(要旨)を、表現や構成を根拠にして読み取ることができる児童が増えた。
- 物語的文章において、動作化を取り入れたり、内容を視覚化した掲示物を活用したりすることで、主体的に活動でき、確かな読みにつなげることができた。
- 書く活動を計画的に取り入れ、素直な表現を認めていくことで、書くことに対する抵抗感が減り、自分の思いや考えを文章に表せるようになった。
- 視写の取り組みを継続することで、板書を写す時間が減少し、書き間違いも減ってきた。また、初めて音読する文章も、まとまりを意識して読める児童が増えた。

#### (2) 今後の課題

- 文章に表現する力の個人差を解消する手立てを考えていく。(習熟度に合わせた学習の工夫)
- 細部に注目させて読み取りを行うだけでなく、部分と全体ともにバランスよく読み取っていくための手立てを考えていく。
- 視写の取り組みの継続。